

性教育だより

～1年生 ふりかえり 号～

平成30年7月19日
大阪市立淀川中学校
性教育委員会

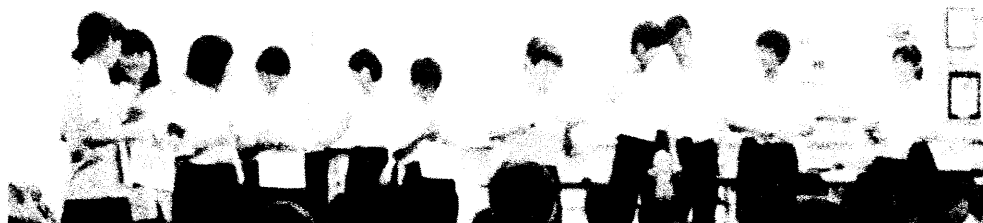
7月3日の5・6限に、大阪市立総合医療センターより助産師の^{みなみの}南 竺さんと福山さんと武田さんに来ていただいて、性教育のお話をさせていただきました。どんな内容だったか覚えていますか？

大切なお話だったので、振り返ってみたいと思います。



命の始まりは、黒いカードの真ん中の小さな点ぐらいの大きさでした。

赤ちゃんの心臓の音と、今の自分の心臓の音を聞き比べました。赤ちゃんは1分間に200回も心臓を動かしています。



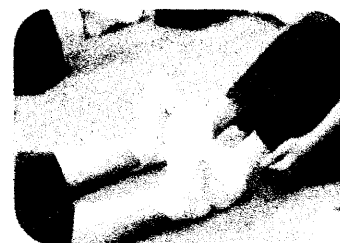
赤ちゃんがおなかの中で大きくなっていく様子を、人形などを使って教えてもらいました。はじめは0.5mmの大きさだったのに、10か月たつと、50cm、3000gぐらいまで大きくなります。



妊婦体験をしました。おなかに赤ちゃんがいると、歩いたり、下に落としたものを拾ったりするのも大変です。



友達と、足の裏をくっつける、手をつなぐ、頭をなでる、お尻をさわる、胸を触る・・・などができるかのお題が出て、プライベートゾーンについて勉強しました。



・・・感想の一部を紹介します・・・

- ・赤ちゃんを産むことは簡単なことだと思っていたけど、実際、とっても難しいことなんだな—と思いました。
 - ・自分も大切にしないといけないと思ったし、家族・友達をもっと大切にしないといけないと思った。
 - ・親の身になってみると、苦しいことを耐えて産んでくれたんだなと思った。お母さんに口ごたえをしたり、口ゲンカをしたりしてイライラさせてしまっている。今考えると、しんどい思いをして産んでくれたお母さんにそんなことをしてしまったんだと思い、後悔している。
 - ・いろいろな人に助けられて命が誕生しているということを初めて知った。
 - ・自分の触られたくないところなどが改めて分かった。自分の命はとても貴重で、大切なものなんだと思った。
 - ・出産のことなど今まで考えたことも、興味もなかったけど、男の人でも赤ちゃんが生まれてくる責任を持たないといけないんだなと思った。
 - ・新しい命を授かるということは、本当に覚悟がいることだと思った。
 - ・一つの命は、とても大きな奇跡と責任が積み重なっていると思った。
- * 感想文に書いてくれた質問は、次回の性教育で話をします。